病院の取り組み

ヘルニコアはじめました

表題のヘルニコアをご存知でしょうか？

これは、2018年8月に世界に先駆け日本で販売開始した新しい腰椎椎間板ヘルニア治療薬になります。

椎間板内酵素注入療法に使用する薬剤でヘルニアを起こしている椎間板の髄核内に直接注射することにより、ヘルニコアの有効成分コンドリアーゼが髄核の保水成分（プロテオグリカンを構成するグルコサミノグリカン）を分解します．その結果，髄核の膨らみを軽減、椎間板内圧が低下することにより治療します。

従来の腰椎椎間板ヘルニアは神経根ブロックを含む種々の保存療法で効果がない場合、手術療法が検討されてきました．このヘルニコアを使用した椎間板内酵素注入療法は保存療法と手術療法の中間に位置される治療法です。

髄核のプロテオグリカンを分解するため、椎間板変性は進行するので注意深い経過観察が必要です。また，薬剤によるアナフィラキシーショック、血腫の可能性，感染症の予防等のため当院では1泊2日入院で施行しております。

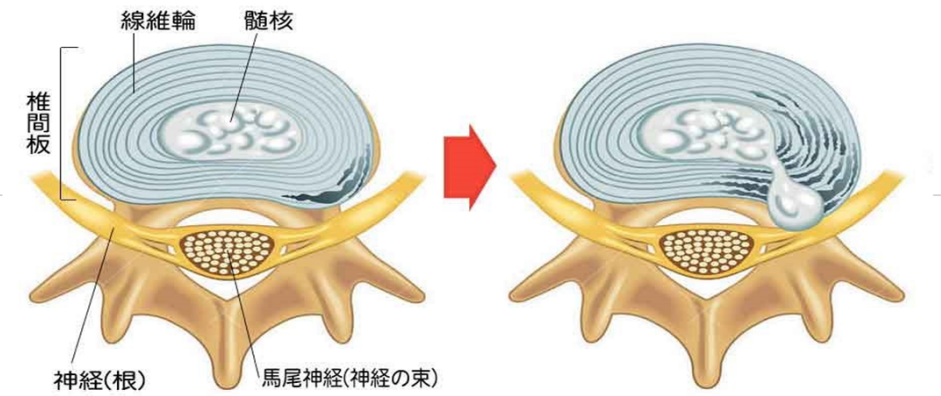
腰椎椎間板ヘルニアで保存療法の限界を感じつつも手術は仕事等の事情（理由）で長期入院出来ない患者さんは良い治療法と思われます。

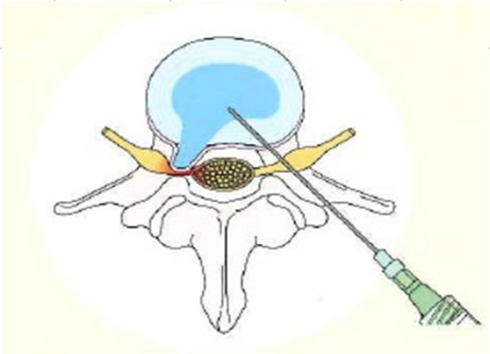
秋田労災病院　病院長　奥山幸一郎

腰椎椎間板内酵素注入治療(ヘルニコア®)

腰椎椎間板ヘルニアについて

椎間板は背骨の骨と骨の間にあり、体重を支えるクッションの役割を担っています。その外側を構成する線維輪とその中身にあたる髄核（ゼリーのような物質）で構成されています。腰の椎間板の中身である髄核が線維輪を破って外にはみ出し、神経を圧迫した状態が椎間板ヘルニアです（下図）。下肢のしびれや痛み、麻痺（力が入らない）、排尿排便障害などの症状が生じます。治療法には、安静、くすり（薬物療法）、装具療法、神経ブロック、リハビリテーションなどの保存療法とヘルニアを摘出する手術療法があります。





腰椎椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア®）について

新しい保存療法（保存と手術の中間に位置する治療法）の一つとして椎間板内酵素注入治療があります。注射で飛び出した髄核を小さくして神経への圧迫を軽減する新しい治療法で、1回注射をするだけという侵襲の小さい治療法です。

「ヘルニコア椎間板注用1.25単位」にはコンドリアーゼという酵素が含まれており、椎間板内に直接注射するとグルコサミノグリカンを特異的に分解して椎間板内圧を低下させ、ヘルニアによる神経根圧迫を軽減し症状（下肢痛、腰痛等）を改善します。全身麻酔の必要もなく、手術と比較して患者様への身体的負担が小さい利点があります。

適応するケース

腰椎椎間板ヘルニアに対する薬物治療やブロック治療などの保存治療で十分な効果が得られない患者様。

ヘルニコア®注入投与後について

入院日に注射をします
手術室でレントゲン装置を見ながら、ヘルニアが出ている腰椎椎間板に針を刺し、椎間板内に薬剤を注入します。日帰り治療も可能ですが、当院では安全を確認するために1泊2日の入院を推奨しています。

本剤は再投与できません
「ヘルニコア」は一生に一度のみの投与となります。患者様へ投与を行った旨を記録する「ヘルニコア治療通知カード」を発行します。脊椎関連疾患で他の医療機関を受診する際には「ヘルニコア治療通知カード」を医師へ提示してください。

投与後の運動、日常生活の注意点など

①治療当日は入浴を控えてください。

②腰椎不安定性の発現を予防するために、投与後1週間は腰に過度の負担がかかる動作（走る、スポーツ、重量物を持ち上げる等）を避けてください。

③運動は投与後3週間をめどに医師の指示により注意深く開始してください。

症状の推移や日常生活の心配点など御遠慮なく担当医に相談してください。

治療に伴う合併症について

薬によるショック・アナフィラキシー等が発現する可能性があります。投与後の入院療養中に「皮膚のかゆみ」、「じんま疹「声のかすれ」、「のどのかゆみ」、「息苦しさ」、「どうき」などの症状が見られたら、直ちに医師や看護師をお呼びください。また、腰痛、下肢痛、発疹、発熱、頭痛などが副作用として報告されています。投与後一時的に腰に重苦しいなどの違和感が生じる場合があります。針で注射を行うため神経や血管の損傷、感染、血腫などが起こることがあります。腰痛や下肢症状が十分に軽減されず外科治療が必要となる場合もあります。

上記以外にも予期せぬ事態が発生する場合がありますが、当院の医師、病棟スタッフ一同で適切な対処をさせていただきます。